

さとうきび通信



平成20年：夏号

発行日：平成20年8月8日

生和糖業(株)喜界工場	
発行責任者：業務部原料係	重野豊一
編集担当者：業務部	三浦功也
原料係・増産担当	登山浩守

◆8月・9月の主な行事予定	
2~3日	喜界町夏祭り
5日	品目別経営安定対策会議(鹿児島)
18日	荒木集落営農座談会(公民館)
25日	喜界町農林技術員連絡協議会8月定例会
8月29日	喜界町さとうきび生産対策協議会総会
9月4日	当社取締役会
9月下旬	喜界町農林技術員連絡協議会9月定例会

猛暑の候、皆様方には農作業にご精励の事と存じます。今期の収穫面積も昨年を上回り皆様方のご努力に感謝申し上げます。

さて、昨年の9月で発刊を休止しておりました『さとうきび通信』を今年8月より装いを新たに発刊致します。今後ともよろしくお願い致します。

平成20/21年期さとうきび収穫面積及び生産見込み数量(6/1現在)

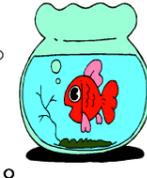
【一筆調査集計】

作型 年期	夏植			秋植			春植			株出			合計		
	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量
	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t
19/20	48,606	9,646	46,887	10,893	7,701	8,389	6,821	6,426	4,383	49,652	6,241	30,986	115,972	7,816	90,645
20/21	42,364	8,273	35,046	9,775	6,826	6,673	11,221	5,584	6,266	56,702	5,530	31,356	120,062	6,608	79,341

◆今期のさとうきび収穫面積は、夏秋植(87.6%)、春植(164.5%)、株出(114.1%)、昨年比合計(103.5%)です。また、20/21年期の単収は過去10年間の最高、最低を除いた8年間の平均で算出し、6/1日現在の生産量は79,341トンを見込んでおります。株出面積が増えたのは株揃えの効果と生産者の努力の賜物です。春植の面積拡大は、株出に向けた効果を期待した取り組みと生産意欲の相乗効果ではと推測しております。増産・増収、収量アップでゆたかに明るい農業へ勤めましょう!!

∞ 病害虫被害状況 ∞

- ★**チンチバック**の被害が湾頭原地区の夏植圃場に一部見受けられます。目視での確認方法は、さとうきびの芯にチンチバックの成虫が生息しているか、確認する。被害症状：葉が次第に黄色になり、葉に吸汁痕があればチンチバックによる被害です。被害がひどくなると、枯死する場合があります。**防除方法：スミチオン乳剤1000倍液を梢頭部に散布する。**2週間～3週間後に葉に青葉が除々に戻れば散布効果があった結果です。
- ★**ワタアブラムシ(サベエ)**の成虫が確認されています。ご自分の圃場を見回り確認して下さい。目視での確認方法は、葉の裏側に生息していないか確認する。被害症状：①葉の裏側に白い虫が付着し葉が黄色になりひどくなると枯死する。②アブラムシが排出する蜜液に**すす病菌**が寄生し、葉面が黒く覆われることがあります。**防除方法：スミチオン乳剤1000倍液を葉裏に散布する。**



☆☆☆☆☆ 夏植にこれがやるべき3カ条(基本項目) ☆☆☆☆☆

I・土づくり・ほ場準備



- ① さとうきびは深根作物で、根の伸長発達は生育収量に大きく影響します。そのため表土の厚さは25～30cm以上が好ましく耕起の深さは30cm以上が望まれます。
- ② 土壌を深耕する場合、サブソイラ、プラソイラ、プラウ等の機械を使用し60cm程度の深耕や心土破碎を行いましょう。



II・良質苗の植付と基肥の実施



- ① 新植の場合は、植付前に、堆きゅう肥の有機物資材を2t/10a、地力が弱い場合は4t/10aを散布し混和しましょう。
- ② 緑肥(ヒマワリ、クロタラリア)やハカマ等をすきこむ場合は、分解促進のため石灰窒素及び硫酸30～40kg/10aを散布し、すきこみましよう。
- ③ プリンスベイトと基肥の施肥実施
植付時に、プリンスベイト及びアドバンテージを使用し基肥を3袋/10a使用しましよう。
- ④ 発芽の良好な無菌苗、無病苗を植えましよう。
- ⑤ 適正な畦幅(120cm)・株間(30cm)に良質苗を多めに植えましよう。



【表】

Ⅲ・雑草対策、病害虫対策も効果的に行いましょう。

★植付直後から雑草対策をしましょう！

①除草剤は土壌処理が基本です。

土壌処理：植付直後に雑草発生前に土壌表面に散布し、処理層を作って雑草の発芽を抑制若しくは死滅させる。センコル水和剤、カーメックス水和剤を散布する。上記の作業で約2ヶ月間は効果があります。

②必要に応じて茎葉処理を行います。

茎葉処理：生育している雑草の茎葉に直接散布し殺草する。

サアから、はらさんばー
ウニェーめーらんどー！

けえーりっかしむ、こーやーねんどー！



- 【注意事項】
- ★農薬メーカーのアンケート調査によると、喜界町は農薬投量、散布量ともに過多の傾向にある。基準量を守り無駄を省きましょう！
 - ★農薬を散布する際は、近隣圃場、特にごま・かぼちゃ等、園芸作物圃場に飛散(ドリフト)しないよう注意してください。
 - 残留農薬が検出された場合、その作物は出荷停止になります。
 - ★農薬散布時には、マスク・手袋・長袖を常用し健康管理に留意下さい。

除草剤名	10a散布水量	使用量(g)
カーメックスD水和剤	100L	100~150
センコル水和剤:100L	100L	300

灌水しましょう！



●喜界町さとうきび生産対策協議会では灌水用にバキュームカー2台(4t車1台、2t車1台)、また喜界町糖業振興会では動力ポンプ2台(消防ポンプ)を貸し出す準備をしております。灌水をして増産・増収につなげましょう!!
ぜひ、お問い合わせ下さい。

◆燃料:満タン貸出・満タン返し。 ◆受付順ですが、日数を限らせて頂きます。



喜界町さとうきび生産対策協議会事務局 (生和糖業(株)内)
Tel 65-3133 生和糖業業務部原料係・増産担当まで
喜界町糖業振興会事務局 (役場産業振興課内)
Tel 65-1456 産業振興課糖業係まで

去る7月18日、平成20年度喜界町糖業振興会総会が休養村管理センターでおよそ250名を参集して開催されました。

表彰式にあたり、最初に本年度優秀集落(一戸あたり株出収穫面積順)として、1位:坂嶺 2位:塩道 3位花良治集落がそれぞれ表彰されました。次に下記記載の各部門の表彰がありました。敬称は略しました、悪しからず!

▼高生産の部

上嘉鉄西: 生田 正信	1,193t
神宮: 岩野 浩二	1,169t
塩道: 尚 長四	1,064t
坂嶺: 岩下雅一郎	1,058t
坂嶺: 開 孝俊	929t

▼高単収の部

前金久: 池田 博正	10,381kg
前金久: 田畑 正人	10,082kg
神宮: 北村 忠広	9,943kg
坂嶺: 開 孝俊	9,748kg
前金久: 三倉 禮嗣	9,736kg

▼春植・株出推進の部

神宮: 岩野 浩二	1,169t
坂嶺: 開 孝俊	929t
前金久: 勝本 照久	841t
佐手久: 奥田喜久男	563t
前金久: 池田 博正	536t

また、75歳以上さとうきび栽培従事者として13名の方々が表彰され、最高齢者は83歳の方が2名おられました。\$ \$ \$ \$ \$ 以上の集落及び受賞者の方々、誠におめでとうございませう、改めてお祝い申し上げます。\$ \$ \$ \$ \$

注意

★平成20年度:さとうきび交付申請手続き・要件審査聞取りが8/18日(月)の週から各集落が始まります。JAあまみ喜界事業本部より事前に御案内があると思いますが、曜日・時間・場所を確認され、一筆もれなく申請されますようお願い致します。(9月末締切) ご相談等がありましたら、原料係・推進員へご一報下さい。

注意

(生和:一言コラム)



※私のサトウキビづくり

神宮集落<岩野浩二氏>

平成18年に松元式ケーンハーベスタを導入し2年目で、ついに10年前に目標に掲げた「1,000トン以上のキビ作り」が達成できて感激もひと潮である。

思い起こせば、平成10年10月の台風10号で20棟のハウスの内、16棟が全滅しこれを機にキビ作+園芸の複合経営からキビ作に専念し10年での快挙となった。

1,000トン農家となれば、さぞかし畑に費やす時間が多いのではと思い聞いてみると、意外にもかえっててきた言葉は、「自分の農業は、無理をせず毎日こつこつコンスタントにやること」と「疲れた時は休み、酒を飲みたいときは飲んでリフレッシュに心がけている」ことだけである。また、こうも付け加えてくれた。昔の人の言葉で「朝露を踏んで星空を見て帰る」つ

まり、朝早くから夜遅くまで農作業を行うことを言った言葉であるが、その頃はクワと鎌だけで農作業を行っていた頃の話であり今の時代にはそぐわないし、むしろ1日中農作業をやっているのは後継者はなくなる。と云う事で時代にあった農業を考えながら、農業を楽しんでいる印象を受けた。今後の目標をたずねると、「1,000トン以上を常時保つこと」と答えてくれた。去年は豊作年で1,000トンを超えたが、維持するのは容易なことではない。そのためには収穫面積の拡大と同時に株出面積の確保も心がけている。去年から株揃えを行なうようになって株出が良くなった。と株出の大切さを強調した。株出も含めて1,169トンの生産量は立派である。最後に「今後も奥さんと二人三脚で頑張る！」と答えてくれた。

編集後記

サトウキビは機械化が着々と進んでおり、植付はプランター、収穫はハーベスタ、収穫後は株揃えを行なったため株出への移行が多くなった。しかし、基本は植付時の欠株を出さないことである。そのためには、ハリガネムシの被害をなくすることが大事で、植付時にアドバンテージ、プリンスベイト剤を使用し茎数確保に努めれば、キビは増収につながる。今年も豊作を期待したいが早魃傾向にある。台風被害よりも早魃被害の方が深刻である。恵みの雨よ、早く降ってくれ!

【裏】